

# 2024 年版 産業機械工業年鑑



重化学工業通信社

---

# 目 次

---

## 第1章 わが国産業機械工業の現状

日本の機械工業／1	油空圧機器とは何か／16
産業機械 9 分野の事業規模／2	油圧機器／16
産業機械の2023年受注高／4	空気圧機器／19
産業機械の2023年度受注高／7	油空圧機器の需要見通し／22
産業機械の2024年度受注見通し／14	

## 第2章 ユーザー業界の動向

<建設機械>／33	(株)アステクニカ／107
建設機械の出荷額と需要予測／34	
主要機種の動向／50	<産業車両>／108
油圧ショベル／50	国内市場／108
ミニショベル／52	世界市場／111
ホイールローダ／53	主要各社の動向／113
建設用クレーン／55	(株)豊田自動織機／113
主要各社の動向／63	三菱ロジスネクスト(株)／118
コマツ／63	コマツ／121
日立建機(株)／70	
コベルコ建機(株)／81	<農業機械>／123
住友重機械工業(株)／86	普及の歴史／123
(株)タダノ／89	生産・出荷動向／124
(株)加藤製作所／92	海外市場の動向／126
(株)クボタ／95	主要各社の動向／128
酒井重工業(株)／98	(株)クボタ／128
(株)竹内製作所／100	井関農機(株)／136
(株)アイチコーポレーション／102	ヤンマーホールディングス(株)／138
古河機械金属(株)／103	(株)I H I アグリテック／141

<特装車>/142	芝浦機械(株)/188
主要各社の動向/142	ファナック(株)/191
新明和工業(株)/142	日精樹脂工業(株)/192
極東開発工業(株)/143	日精エー・エス・ビー機械(株)/194
株モリタホールディングス/145	東洋機械金属(株)/196
<工作機械>/147	<ロボット>/198
受注動向/148	需給動向/199
主要各社の動向/153	主要各社の動向/201
ヤマザキマザック(株)/153	ファナック(株)/201
DMG森精機(株)/154	A B B ロボティクス/203
オーフマ(株)/156	K U K A ロボティクス/205
株ジエイテクト/157	株安川電機/205
芝浦機械(株)/158	川崎重工業(株)/207
株牧野フライス製作所/159	株F U J I /208
株ツガミ/160	不二輸送機工業(株)/210
株ソディック/161	株ダイヘン/210
スター精密(株)/163	株ユーシン精機/212
<鍛圧機械>/165	セイコーワエプソン(株)/213
受注動向/165	セーラー万年筆(株)/214
主要各社の動向/169	株スター精機/215
株アマダ/169	株ジャノメ/216
アイダエンジニアリング(株)/172	<物流・運搬機械>/218
エイチアンドエフ(株)/175	立体駐車場/218
<プラスチック加工機械>/176	主要各社の動向/219
射出成形機/176	三菱重工機械システム(株)/219
押出成形機/179	I H I 運搬機械(株)(略称 I U K)/219
ブロー成形機/181	新明和工業(株)/221
主要各社の動向/184	キトー(株)/222
住友重機械工業(株)/184	株ダイフク/223
株日本製鋼所/186	トヨーカネツ(株)/225
	N C ホールディングス(株)/226

エレベータ／228	株日立産機システム／231
アジア市場の動向／228	コベルコ・コンプレッサ株／232
三菱電機ビルソリューションズ／228	アネスト岩田株／233
フジテック／229	北越工業株／234
日立グループ／230	
<コンプレッサ>／231	<食品機械>／237
主要各社の動向／231	<包装機械>／239
	<半導体製造装置>／241

### 第3章 要素機器メーカーの動向

アズビルTACO株／245	住友精密工業株／275
イーグル工業株／245	住友理工株／277
イハラサイエンス株／248	ダイキン工業株／279
SMC株／250	ダイキン・ザウアーダンフォス株／281
NOK株／251	大生工業株／282
NTN株／252	株TAIYO／283
神威産業株／254	タイヨーインタナショナル株／284
カヤバ株／255	株タカコ／285
川崎重工業株／258	株ツバキ・ナカシマ／286
株協立製作所／261	椿本チエイン株／287
黒田精工株／262	THK株／289
甲南電機株／263	TOHTO株／291
光陽精機株／264	東京計器株／292
株コガネイ／264	中村工機株／294
コンバム株(旧株妙徳)／266	NACOL株／295
株阪上製作所／267	株ナジコ／296
株ジェイテクト／268	ナブテスコ株／297
株ジェイテクトフルードパワー システム／270	仁科工業株／300
CKD株／271	ニッタ株／300
株島津製作所／273	株ニューエラー／302
	日本アスコ株／302

日本オイルポンプ(株)／303  
日本精工(株)／304  
日本トムソン(株)／305  
日本トレルボルグシーリング  
ソリューションズ(株)／306  
(株)日本ピスコ／307  
日本ポール(株)／308  
日本ムーグ(株)／309  
ハイダック(株)／310  
(株)バルカー／312  
廣瀬バルブ工業(株)／313  
(株)不二越／314  
(株)ブリヂストン／316  
ボッシュ レックスロス(株)／319  
(株)堀内機械／321

三菱重工機械システム(株)／322  
ヤマシンフィルタ(株)／323  
油研工業(株)／325  
横浜ゴム(株)／327  
和興フィルタテクノロジー(株)／329  
<サーボモータ>／331  
生産・出荷動向／331  
　　アナック(株)／332  
富士電機(株)／332  
パナソニック インダストリー(株)  
　　／333  
三菱電機(株)／335  
(株)安川電機／337  
<ボールねじ>／339

## 第4章 海外主要機械メーカーの動向

フルードパワー機器メーカー／341  
ボッシュ レックスロスAG／341  
パークー・ハニフィン／344  
ムーグ／346  
ダンフォス／350  
インターポンプ・グループ／352

欧米の主要機械メーカー／355  
キャタピラー／355  
ディア／360  
CNHインダストリアル／362  
アグコ／369  
ボルボCE／373  
リープヘル／376

テレックス／381  
JCB／384  
サンドビック／386  
エピロック／388  
メッツォ／391  
キオングループ／394  
ユングハインリッヒ／398  
ハイスター・エールMH／401  
マニトウ／404  
マニトワック・クレーン／406  
パルフィンガー／408  
カーゴテック／411  
ワッカー・ノイゾン／414  
ドイツ／417

アジアの主要機械メーカー／420	山推／443
[韓国]	厦门厦工机械／444
H D現代インフラコア／420	山河智能裝備集團／446
H D現代建設機械／423	中国龍工／448
[インド]	安徽合力／449
マヒンドラ＆マヒンドラ／426	杭叉集團／451
エスコーツ・クボタ／428	・柴雷沃重工／453
インターナショナル・トラクターズ／430	広西玉柴重工／455
T A F E／431	第一トラクタ／456
[中国]	瀋陽機床集團／459
中聯重科／432	海天國際集團／461
三一重工／435	震雄集團／463
徐工／438	江蘇恒立液壓／466
広西柳工／441	

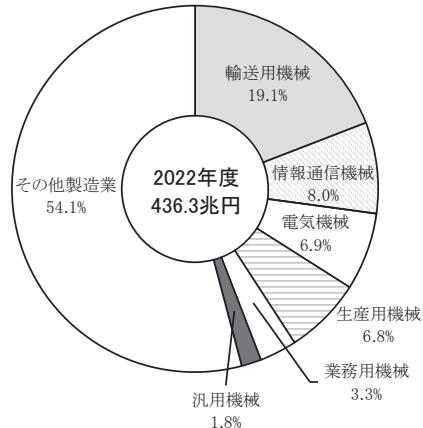
## APPENDIX 関係官庁・団体一覧／469

## 日本の機械工業

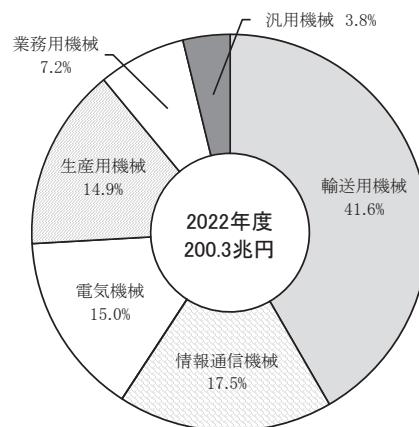
財務省の法人企業統計によると、日本における機械工業の2022年度売上高は、輸送、生産、情報通信、電気、業務、汎用機械の6業種を合わせた単純合計で前年度比8.7%増の200兆円と5年ぶりに200兆円台へ復帰した。一方、営業利益は9.5%増の10兆円と2年連続で増加し、やはり5年ぶりに10兆円台に復帰した。機械工業は、日本の製造業総売上高のうち45.9%を占めており、営業利益では同様に53.0%を占めるなど、重要な位置を占めている。しかも、売上高営業利益率を見ると、2022年度は日本の製造業平均である4.5%に対して5.2%と、これを0.7ポイント上回り、機械工業6業種のうち製造業の平均値を下回るのは輸送用機械の3.4%のみ。それでも輸送用機械が稼いだ利益額は、機械工業の中で最高の2.8兆円を誇る。機械工業の平均営業利益率は2017年度の5.4%をピークに3年連続で下降を続けたが、2020年度の2.4%を底に急回復を見せ、2022年度は2017年度に次ぐ高い利益率を記録した。

一方、機械工業の売上高を分母にした各機械の分類比は、自動車を主体とする輸送用機械が42%弱を占め、情報通信機械と電気機械が合わせて32%強。残る26%が生産用機械と業務用機械および汎用機械の合計で、本書が取り上げる産業機械はこれらに含まれる。2022年度の大きな変化は、売上高順位に異動はなかったが、営業利益が前年度トップだった情報通信機械が21%減となって生産用機械に次ぐ第3位にまで落ち込んだこと。電気機械の6%減と併せ、ユーザー業界の不調を反映した結果となった。

製造業の売上高構成



機械工業の売上高比率



■機械工業の売上高ランキングと製造業に占める割合

単位:億円、%

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年比	構成比
1	輸送用機械	795,140	792,106	709,930	747,299	833,987	111.6	19.1
2	情報通信機械	332,733	283,277	262,766	342,006	350,749	102.6	8.0
3	電気機械	317,953	303,516	288,892	296,212	299,844	101.2	6.9
4	生産用機械	268,835	234,539	213,673	255,278	298,023	116.7	6.8
5	業務用機械	134,256	134,742	131,259	132,107	143,423	108.6	3.3
6	汎用機械	74,636	70,281	66,835	69,774	76,742	110.0	1.8
	機械合計	1,923,553	1,818,461	1,673,355	1,842,676	2,002,768	108.7	45.9
	製造業計	4,142,698	3,984,997	3,650,948	4,017,740	4,363,420	108.6	100

出所:財務省「法人企業統計」

## 主要各社の動向

### <コマツ>

〒105-8316 東京都港区海岸一丁目2-20（汐留ビルディング）

世界第2位の建設機械メーカー。早くからグローバル展開を推進しており、米州、欧州、アジアなど世界の各地に生産拠点を展開。2015年2月にスタートした建設現場向けソリューション事業「スマートコンストラクション®」を推進。国内外建設業の生産性を飛躍的に高め人材不足解消に貢献している。2021年5月13日に創立100周年を迎えた。

#### ■2023年度の業績

コマツの2024年3月期業績(米国会計基準)は、営業利益が6,072億円(前期比24%増)となった。固定費や資材価格上昇の影響を、各地域での売価改善や円安影響で吸収した。

連結売上高は、3兆8,651億円(9%増)となった。建設機械・車両部門では、一般建機の需要が中南米、欧州、アジアを中心に減少したが、北米では堅調に推移した。また、鉱山機械の需要も、資源価格が安定的に推移したこと背景に堅調だった。コマツは鉱山機械を中心とした機械の高稼働による部品・サービス売上げの増加、各地域での販売価格の改善に円安影響も加わり増収となった。一方、産業機械他部門も、自動車産業向けの大型プレスの販売増加などにより、売上高は前期を上回った。

#### ■コマツの業績

(単位：百万円)

	年度(3月期)	2021	2022	2023	前年度比	2024予想	前年度比
全社	売上高	2,802,323	3,543,475	3,865,122	109.1%	3,861,000	99.9%
	営業利益	317,015	490,685	607,194	123.7%	557,000	91.7%
	営業利益率	11.3%	13.8%	15.7%	-	14.4%	-
	税引前利益	324,568	476,434	575,663	120.8%	518,000	90.0%
	株主に帰属する当期純利益	224,927	326,398	393,426	120.5%	347,000	88.2%
建設機械・車両	売上高	2,564,398	3,296,566	3,615,182	109.7%	3,553,000	98.3%
	セグメント利益	315,536	443,603	573,987	129.4%	538,000	93.7%
	セグメント利益率	12.3%	13.5%	15.9%	-	15.1%	-
	うち海外売上高	2,260,770	2,974,820	3,274,963	172.8%	3,218,200	98.3%
	海外売上高比率	88.2%	90.2%	90.6%	-	90.6%	-
リテールファイナンス	売上高	71,862	85,630	103,546	120.9%	106,000	102.4%
	セグメント利益	17,199	27,267	24,243	88.9%	22,000	90.7%
	セグメント利益率	23.9%	31.8%	23.4%	-	20.8%	-
産業機械他	売上高	188,368	190,941	195,620	102.5%	229,000	117.1%
	セグメント利益	22,595	22,586	10,279	45.5%	28,000	272.4%
	セグメント利益率	12.0%	11.8%	5.3%	-	12.2%	-

#### ■建設機械・車両部門の売上高は10%増

部門別の業績と地域別の売上高は表記の通り。建設機械・車両部門の売上高は10%増で、セグメント利益は3割増加した。地域別の概況をみると、日本の売上高は前期を上回った。新車需要が前期並みに推移する中、販売価格改善で底上げした。

米州のうち北米の一般建機需要は、レンタル、インフラ、エネルギー関連向けに加え、住宅建設向けも堅調に推移した。鉱山機械の需要も好調に推移したことや円安、売価改善も増収に寄与した。中南米では、経済の先行き不透明感などにより一般建機の需要は減少したが、鉱山機械の需要は堅調に推移した。鉱山機械の部品・サービス売上げの増加や円安、販売価格の改善も好影響となった。

欧州の売上高は前期並みだった。金利やエネルギー価格の高止まりの影響で、主要市場である

## 工作機械

工作機械とは、機械部品を加工する機械のことをいい、主に工具を使って金属の切削加工を行うことから「金属切削加工機械」ともいう。その起源は古代エジプトまで遡ることができるが、近代的な工業生産財としての工作機械は、産業革命の推進力となった蒸気機関や紡績機械を製造する必要性から1770年代に英国で発明され、18世紀末以降、欧米各国で特色ある工作機械が生まれてきた。

工作機械はあらゆる産業の基礎的設備機械であり、機械産業発展の鍵を握る重要な産業として、各国とも戦略産業として位置づけている。しかし、量的には機械工業生産の1～2%程度に過ぎず、主に質的な面でわが国経済の発展に貢献する産業といえる。

精密で複雑な部品を正確かつ効率的に作ることが工作機械の役割であり、また全ての機械やそれらの部品は工作機械によって作られていることから、「機械を作る機械」「マザーマシン(母なる機械)」などとも言われる。金属に限らず、セラミックスやガラスといった非金属も加工できる。

工作機械には旋盤、歯切り盤、ボール盤、中ぐり盤、フライス盤、研削盤など用途によって様々な種類がある。近年では、相対位置の数値制御を自動化することで、生産効率を高めたNC加工を行う工作機械が主流となった。

円筒形の金属を加工する旋盤は、工作機械の中で数多く用いられている代表的な機種の一つで、外丸削りや面削り、円筒テープ削り、中ぐり、穴あけ、ねじ切りなどの方法で加工する汎用的な機械である。普通旋盤、ならい旋盤(ならい装置により形状の複製を可能としたもの)、タレット旋盤、自動旋盤、立て旋盤、卓上旋盤、卓上タレット盤や正面旋盤などがある。

NC旋盤とは、各種の旋盤にNC装置を取り付け、刃物台の移動距離や送り速度をコントロールするもので、現在ではコンピュータを用いたCNC旋盤が主流である。なかでも、回転工具によるフライス削りや穴あけなどの加工機能を備えたものをターニングセンタという。

ボール盤は、工作物にドリルによる穴あけ加工を行う機械で、リーマ通し、ねじ立て、中ぐりなどの加工も行える。NCボール盤(ドリリングセンタおよびタッピングセンタ含む)、直立ボール盤、ラジアルボール盤、多軸ボール盤、卓上ボール盤、深穴ボール盤

### ■工作機械の加工方法

加工方法	工作物の回転による切削		切削(バイト)
	工具の回転による切削		フライス削り(フライス工具) 中ぐり(バイト) 穴あけ・ねじ立て・リーマン仕上げ(ドリル) 歯切り(ホブカッタ)
	工作物または工具の直線運動による切削		平削り(バイト) 形削り・立て削り(バイト) プローチ削り(プローチ工具) 歯車削り(ピニオンカッタ・ラックカッタ)
研削加工	固定砥粒によるもの		研削 ホーニング仕上げ 超仕上げ ラップ仕上げ(乾式)
	遊離砥粒によるもの		ラップ仕上げ(遊式) パレル仕上げ 液体ホーニング
特殊加工	放電加工 電解加工 超音波加工 電子ビーム加工 レーザ加工		

### 〔生産拠点〕

本社工場(電動アクチュエータ) : 〒184-8533 東京都小金井市緑町3-11-28 TEL:042-383-7111  
駒ヶ根事業所(電磁弁・シリンダ) : 〒399-4102 長野県駒ヶ根市飯坂2-6-1 TEL:0265-83-5111

## コンバム株式会社

〔本 社〕 2022年1月1日付で商号を妙徳から「コンバム」へ変更。創業70周年を機に業界内で認知されている名称を商号とすることにより、製品ブランド「コンバム(CONVUM)」の更なるブランド価値向上、コーポレートブランドの確立、業界の枠を超えてより一層認知される企業を目指す。

### 〔業 績〕

2023年12月期は営業利益が前期比47.9%減の3億円、経常利益が43.6%減の3億円、当期純利益が48.2%減の2億円となった。売上高は19億円と19.2%減少した。

日本では、前年好調だった半導体製造装置及びメンテナンスの需要減少が顕著となり、真空機器及び吸着パッドの受注が減少した。生産設備の省人化、自動化の流れでのロボットハンド関連製品の需要は旺盛で、新たな顧客の取り込みを中心に営業活動を展開した。この結果、売上高は15.1%減の15億円、営業利益は44.6%減の2億円で期を終えた。

韓国では、昨年前半までの半導体関連の特需が収束したことから、ソーラーパネル、カーメラレンズ及び二次電池関連を中心に営業活動を展開し、現地生産によるセカンドブランド製品の拡充を行い、価格競争の中でユーザーニーズに対応した。この結果、売上高は15.0%減の3億円、営業利益は26.0%減の22百万円となった。

中国では、ゼロコロナ政策の解除以降、内需主導での経済は回復に至らず、また米国との半導体分野の輸出制限強化による生産回復が低調に推移した。この結果、売上高は23.5%減の88百万円、営業利益は10倍の83百万円だった。

その他地域では、タイ及び周辺諸国での自動化設備への拡販活動を引き続き推進し、タイ国内では自動車関連設備、食品関連設備への製品投入を積極的に行った。この結果、売上高は68.1%減の53百万円、営業損失は169万円となった。

2024年12月期は売上高が前期比5.7%減の18億円、営業利益が13.3%減の2億円、経常利益が16.5%減の3億円、当期純利益が17.3%減の2億円を見込んでいる。

### ■コンバムの業績

(百万円)

	年度(12月期)	2020	2021	2022	2023	前年度比	2024予想	前年度比
全社	売上高	2,183	2,469	2,380	1,924	80.8%	1,814	94.3%
	営業利益	340	546	614	319	52.1%	277	86.6%
	営業利益率	15.6%	22.1%	25.8%	16.6%	—	15.3%	—
	経常利益	357	576	647	365	56.4%	305	83.5%
	当期純利益	244	402	458	237	51.8%	220	82.7%
日本	売上高	1,586	1,752	1,691	1,436	84.9%		
	セグメント利益	334	505	540	299	55.4%		
	セグメント利益率	21.1%	28.8%	31.9%	20.8%	—		
韓国	売上高	334	456	407	346	85.0%		
	セグメント利益	-20	20	30	22	74.0%		
	セグメント利益率	—	3.6%	7.4%	6.4%	—		
中国	売上高	144	131	116	89	76.5%		
	セグメント利益	20	11	8	83	1009.3%		
	セグメント利益率	13.7%	8.5%	7.1%	93.9%	—		

## 株式会社バルカー

[本 社] 〒141-6024 東京都品川区大崎2-1-1 TEL:03-5434-7370 FAX:03-5436-0560

### [業 績]

2024年3月期は、売上高が前期比0.7%減の617億44百万円、営業利益が20.0%減の71億2百万円、経常利益が18.1%減の73億99百万円、当期純利益が27.2%減の49億9百万円となった。

うちシール製品事業は、機器市場向けが自動車生産の回復等により増加したものの、先端産業市場向けは半導体関連景況の変動を受けて減少し、売上高は7.4%減の371億60百万円、セグメント利益は53.4%減の31億40百万円と減収減益で期を終えた。

### ■バルカーの業績

(百万円)

	年度(3月期)	2020	2021	2022	2023	前年度比	2024予想	前年度比
全社	売上高	44,717	53,167	62,178	61,744	99.3%	62,500	101.2%
	営業利益	3,475	6,972	8,877	7,102	80.0%	6,500	91.5%
	営業利益率	7.8%	13.1%	14.3%	11.5%	—	10.4%	—
	経常利益	3,673	7,193	9,029	7,399	81.9%	6,500	87.8%
	当期純利益	3,090	4,841	6,746	4,909	72.8%	5,000	101.9%
シール製品	売上高	31,349	34,995	40,130	37,160	92.6%		
	セグメント利益	4,160	5,506	6,740	3,140	46.6%		
	セグメント利益率	13.3%	15.7%	16.8%	8.4%	—		

(注)当該セグメントのみを抜粋

### 〔中期経営計画〕

2024年3月期から3カ年の中期経営計画「NF(New Frontier)2026」をスタートさせた。創業100周年期となる2027年3月期には売上高800億円、ROE(自己資本利益率)15%以上の達成をめざす。

NF2026では、『世界の分断が急激に進み、デジタル化によるビジネスモデルが激変する環境下において、「THE VALQUA WAY」のもとマルチ視点で、ステークホルダーの最高満足に向けて新たな価値創造に邁進する』を掲げ、①激変する世界において本質を追求する目線の確立とそれに伴う人材育成、②地政学リスクの増大に対応した更なるサプライチェーンの改革と強靭化、③デジタルイノベーション加速による新たなAI／ITソリューション事業のマネタイズ、④「技術流出」の徹底防止と新領域・新技術の見極め、⑤「Think Globally, Act Locally」によるグローカリゼーションの徹底、を5つの基本方針とした。投資額はM&A枠を含め、3年間累計で300億円を計画している。

### 〔近年の動向〕

2018年10月、日本バルカー工業㈱から㈱バルカーに社名変更した。

シール製品事業のアジア展開を加速させている。ベトナムでは、バルカーベトナムがハノイに営業拠点を2015年4月に開設。石油精製施設や化学プラント向けにガスケット等の販売を強化する。

韓国では、京畿道平沢市にバルカーコリアを開設し、2016年2月から半導体製造装置の部品として使用する高機能シール製品を生産している。また、同工場には研究開発拠点を併設し、開発の強化を図っている。

シンガポールでは、2017年11月にASEAN地域の統括会社、バルカーシンガポールを設立。タイ法人、タイバルカーのシンガポール支店を買収し法人化したもので、ASEAN地域の全体戦略を管理するほか、グループの生産品と調達品を販売する。

## ダンフォス

ダンフォスはデンマークのノーボーに本拠を置く冷凍・冷蔵装置および暖房機器の大手で、低電圧AC駆動システムなども手がける。インフラ、食糧供給、エネルギー効率、気候にやさしいソリューションを提供している。マズ・クラウゼンの創業以来80年以上にわたる歴史を持つ非上場企業である。

油圧機器事業会社のダンフォス・パワーソリューションズは油圧トランスマッション(HST)の大手で、農業機械や道路機械、クレーンおよび乗用芝刈機など向けで高い実績。

また電気駆動技術のパワーエレクトロニクス&ドライブ部門は、電動モータの速度を最適制御するAC駆動システムおよびスタック、パワーモジュールなどを扱う。用途としては機械製造業、水処理、食品飲料、暖房、換気空調、舶用、海上、自動車および再生可能エネルギー発電と多岐にわたり、最近は電動車用駆動制御やハイブリッドシステムなども扱う。

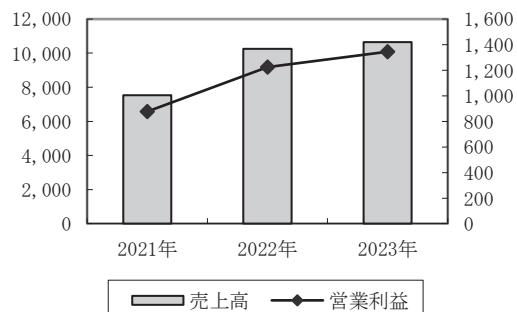
2021年8月、米国同業大手のイートンから油圧機器事業を買収した。2020年1月の両社による発表から1年半を経て、従業員1万9,000人強で年間売上高が40億ユーロを超えるグローバルプレーヤーが誕生した。都市化、デジタル化、電動化、気候変動などのメガトレンドの中で、ダンフォスの野心は、グリーン移行における顧客の主要な技術パートナーになることである。

### ■ダンフォスの2023年売上高は4%増の107億ユーロ

ダンフォス(本社：デンマーク王国ノーボー)の2023年12月期業績は、買収関連償却前の営業利益が前期比10%増の13億4,500万ユーロで、純利益は20%増の8億1,900万ユーロと、概ね計画通りの業績を上げた。営業利益率は、前期の11.9%から12.6%に改善した。世界的なトレンドが生み出した市場機会を捉え、同社は業績を拡大した。

連結売上高も、前期比4%増の106億5,400万ユーロで概ね計画通りだった。為替換算差を除けば正味2%の増収となった。データセンター

ダンフォスの業績  
(全社)



### ■ダンフォスの業績(抜粋)

	年度(3月期)	2021年	2022年	2023年	前年度比
全 社	売上高	7,539	10,256	10,654	103.9%
	営業利益	877	1,224	1,345	109.9%
	営業利益率	11.6%	11.9%	12.6%	-
	当期純利益	631	683	819	119.9%
パワーソリューションズ	売上高	3,209	5,087	4,833	95.0%
	営業利益	489	720	701	97.4%
	営業利益率	15.2%	14.2%	14.5%	-
パワーエレクトロニクス & ドライブ	売上高	1,436	1,911	2,685	140.5%
	営業利益	180	196	391	199.5%
	営業利益率	12.5%	10.3%	14.6%	-

# 欧米の主要機械メーカー

## キャタピラー

米キャタピラー(CAT)は世界最大の土木建設・鉱山機械メーカー。ディーゼルエンジンや産業用ガスタービン、鉄道機器も手がけ、さらにはこれらに関連した金融サービスや部品再生、物流サービスでも大手。全世界180カ国以上で300以上の製品を販売、売上高の半分以上は米国以外から得ている。マーケティング、物流、サービス、研究開発・その他関連施設とディーラーの拠点は全世界に500カ所以上あり、顧客に密着した販売とサービスを提供している。創業以来、イリノイ州を本拠に事業を展開してきたが、2022年に本社機能をテキサス州アービングに移した。

同社のルーツは19世紀末の2人の技術者、ベンジャミン・ホルトとダニエル・ベストに行き着く。両社は農業の機械化のため、それぞれ独自に蒸気エンジン・トラクタの開発に取り組んでいた。1904年にホルトが蒸気エンジン駆動の履帯式トラクタの開発に成功。1906年にはガソリンエンジン駆動の履帯式トラクタを製作。1925年にホルト・マニュファクチャリング・カンパニーとC.L.ベストトラクタが合併し同社の元となるキャタピラー・トラクタが発足。現社名になったのは1986年である。

### ■2023年の営業利益は前期比64%増の130億ドル

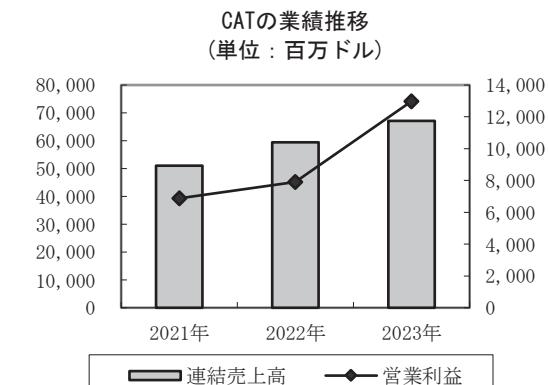
2023年12月期連結業績は、営業利益が前期比64%増の130億ドルで、営業利益率は19.3%となり、前期を6ポイント上回った。

連結売上高は、前期比13%増の671億ドルとなった。そのうち、サービスが5%増の230億ドルで、過去最高を記録した。エンドユーザー向け機械販売台数の増加が9億50百万ドル、値上げは55億96百万ドルの増収に寄与した。

CATはデジタルツールを引き続き強化しており、顧客が適切な部品を見つけやすく買いやすくしたこともあり、オンライン上の新規顧客が10万人以上増えて、eコマースの売上が大幅に伸び、2022年5月のInvester Dayで公表したeコマースの目標も達成した。

### ■2024年業績予想

2024年の見通しは、連結売上高と利益が過去最高を記録した2023年とほぼ同水準になると予想している。最終市場の需要が依然健全であり、2023年末の受注残高が275億ドルと連結売上高比で上昇していることや、若干の値上げと事業



■キャタピラーの2023年12月期業績  
(単位:百万ドル)

	2021年	2022年	2023年	前年比
連結売上高	50,971	59,427	67,060	112.8%
営業利益	6,878	7,904	12,966	164.0%
純利益	6,489	6,705	10,335	154.1%
従業員数(人)	107,700	109,100	113,200	103.8%

### ■セグメント別業績

	2021年	2022年	2023年	前年比
機械・エネルギー・輸送	48,188	56,574	63,869	112.9%
金融	2,783	2,853	3,191	111.8%
連結売上高	50,971	59,427	67,060	112.8%